

蜷城おくんち【ひなしろおくんち】



開催場所

朝倉市蜷城林田210

美奈宜神社

開催日

10月21日

【芸能の概要】

美奈宜神社の秋の祭典「蜷城おくんち」には、現在獅子舞2組・毛槍4組・子供太鼓1組・浦安の舞が奉納されている。蜷城の獅子舞は、雌雄一對の獅子で構成される。獅子は胴体をシュロで編み、獅子役の脚にもシュロを用いるところが特徴。各獅子には、「郷社」と呼ばれる1名の責任者と、「鼻もち」と呼ばれる2名の世話役人が付き、獅子役が2名ずつ入り舞が演じられる。「鼻もち」は獅子役を経験した若者で、暴れ回る獅子の口を取り、押さえ役をする。獅子舞に伴奏はないが、獅子同士の息は絶妙で、勇壮に暴れ回る豪快な演技である。

【芸能の特徴】

蜷城おくんちの起源は不明。1509（永正6）年に永屋地区が領主より清道旗を賜り、その頃から御神幸及び獅子舞が行われていたといわれている。また1844（天保15）年の「林田宮御神事定書」に1698（元禄11）年以降の、神幸祭についての記載がある。現在の神幸祭は、明治中期のものをほぼ踏襲しているといわれている。

林田美奈宜神社社伝によると、かつての神幸祭は神輿が千歳川を渡り摂社恵利八幡宮を御旅所としていたという。大正初期に千歳川の御渡がなくなり、現在は上畑に御旅所を置き御神幸を行っている。現在、獅子舞が2組、毛槍4組、子供太鼓1組が神幸祭に参加している。獅子舞は、長田、鵜木、中島田の3地区が奉納していたが、中島田の獅子は大正時代初期に途絶えた。長田の獅子舞は第二次大戦後中断していたが、昭和40年初頭に「蜷獅子会」が結成され復活した。鵜木の獅子舞は昭和52年から中断していたが、平成13年に復活した。毛槍は8組あったが、戦後中断、金丸の毛槍が平成5年に復活。また近年では、長田、片延、福光、金丸の毛槍が小学生達に伝承されている。子供太鼓は3組あったが、大戦後中断。平成11年に古老より習得し、1組の子供太鼓が復活している。

【使用する祭具・道具など】

子供太鼓は笛楽と共に奉納される。太鼓は2つあり、2人の子供によりそれぞれ叩かれる。

・アクセス

甘木鉄道 西鉄甘木駅より西鉄バス田主丸行き林田バス停下車（約15分）すぐ

・周辺の観光

秋月城跡、甘木公園、水の文化村、江川ダム
甘木バタバタ市(1月)
秋月春祭り(4月)
甘木市民のまつり・邪馬台国 in あまぎ(5月)
三奈木おくんち(10月)

・近くの特産品

秋月焼、草木染め、水前寺海苔、秋月葛

